

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600293		
法人名	有限会社ひなた		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	石狩市花川南2条6丁目118		
自己評価作成日	平成30年1月21日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2017_022 kani=true&amp;Jig_yosyoCd=0177600293-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2017_022 kani=true&amp;Jig_yosyoCd=0177600293-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中の民家改造型のグループホームです。共用型サービスも行っており、日中はサービス(最多3名)の利用者とグループホームの利用者が、一緒に過ごしています。地域の方やボランティアさんとの交流を大切にしており、外部の方が訪問してくれる事が日常的になっています。お客様を歓迎し笑顔でお迎え、特に手作りおやつを食べながらボランティアさん達のおやつタイムが楽しみです。「自分らしく生き生きと・・・」「笑顔がいっぱい・・・」という二つの理念を柱に、家庭的な雰囲気の中で生活を営んでおり、終の棲家として、看取りをさせて頂く事が多くなりました。階段のある建物なので、毎日の階段昇降、狭い空間なので、つままりながらの歩行・・・と、本当に歩けなくなる時まで、自分の足で歩いているひなたの皆さんです。レク活動も積極的に体操・歌・ゲームなどで元気に日中を過ごしています。

石狩市南部と札幌市北区との境界に隣接し、人口密集地の戸建て住宅街のなかに立地している。以前から住み慣れた町内に14年前に一般住宅を改造しグループホームとして1ユニットの事業所を開所し、周りには慣れ親しんでいる知人が多く地域住民との交流を楽しんでいる。その後共生型サービスを併設しどちらも入所待ちであり地域には1つの交流の場として根付いている。同じ町内会にあるグループホーム「愛の家」との合同行事、利用者参加の「ふれあい広場」、子供や住民参加として花火大会、炭焼きパーティ、クリスマス会などの多くの行事を実践している。このほか多くのボランティアや学生の来訪があり、マジックショー、手打ちそば、歌謡三味線、ボランティアとの散歩支援、ハーモニカグループの演奏など、利用者自身が体を動かすことを好み交流を楽しみにしている。職員も積極的に準備をして多くの行事を実践することで日常のケアでも利用者、家族との意思疎通があり良好な関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検しうえて、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			自己評価	実施状況	外部評価	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開設当時に皆で作成し、その後追加した物だが、常に理念を念頭に置き、ミーティングの場でもその理念を話題にし、新しい職員にも伝えるようにしており、実践につなげている。	開所時の理念「自分らしく生き生きと」から後に「笑顔がいっぱい」を追加して今の理念になった。理念は居間に掲示し、ミーティングや日々のケアの実践中に周知することで職員で共有を図っている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流を大切に思い、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。地域行事への参加、また独自の行事へのお誘いをしたり、散歩時の会話なども含め、日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の夏祭りや敬老会に参加して交流を深めている。事業所での焼肉パーティ、花火大会、クリスマス等では多くの子供や地域住民の参加があり、地域と良好な交流を継続している。また、同じ町内会にある他のグループホームと会館で合同行事を行って、交流を深めている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「まちかど介護相談所」・キャラバンメイトなどの活動と共に、年に数回、町内回覧している『グループホームひなた便り』の中で認知症の方のエピソードを掲載し、認知症の理解・支援方法を地域の方に発信している。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告書は全職員が見る体制になっており、その中で必要な項目については、ミーティングなどで話し合い、サービス向上に活かしている。	年6回、町内会会長や行政職員、民生委員、家族などが出席して、運営内容や行事予定、ヒヤリハット報告、避難訓練報告、行政機関からの案内などを行って、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。家族に議事録、利用者の日々の生活の報告、「ひなた通信」と併せて送付している。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築いている。	市担当者と事業所の空室状況、申請や継続手続きで不明な点があるときは指導や助言を受けている。共用型デイサービスを行っており、市担当課から意見を求められ、相談を持ちかけられることも多い。運営推進会議に市職員が参加しており、助言、指導、情報を得て密接な関係ができています。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の業務を通じて、身体拘束のないケアについて話し合い、身体拘束のないケアを実践している。またミーティングなどでも日々のケアの中で実践できているかの振り返りや確認をしている。玄関の施錠については夜勤帯だけ、防犯安全上、施錠しているが、日中は、しないのを当然と認識している。	研修会以外にもミーティング後に学習会、日々のケアで気の付いた事を実例を挙げて拘束ととならないケアを周知するように努めている。階段を認識しない利用者の安全に配慮し、家族の同意を得て居室のドアに鈴を取り付けている。玄関の施錠は夜間のみしている。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員については学ぶ機会を持っていないのも実情だが、常にミーティングの中でも確認しあい、また事業所内だけでなく、自宅での虐待なども見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部学習などで学んだ職員は多い。個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明などは、すべて管理者が行っている。その際には、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を表しやすい雰囲気作りをしており、職員に伝えてもらったことも管理者から、きちんと話をするようにしている。運営推進会議の中でも意見を聞かせて頂き、運営に反映させている。	利用者とは日々の関わりと、家族が来訪したときの会話などから要望、意見を言える信頼関係を築き運営に反映させている。また、意見内容を個人記録に記載しケアサービスに反映させて、メール、ライン、電話で家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談の中で運営に関する職員の意見や提案を聞くようにしているが、日常的にも職員の意見を聞き、反映させている。	月1回のミーティングの他、管理者と日常的に自由に話し合っている。代表者は年2回の個人面談を行い、時間をかけて職員と利用者のケアのしかたや虐待等の勉強会について等の話し合いを行いお互いの信頼関係を築き、要望を汲み取るように努め運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議の場で、経営状態など職員に公表しており、職員の質問や意見を聞きながら、出来る限り、職員の職場環境・労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部学習会の機会は減っており、職場環境との関わりの中で、検討していきたいが、可能なかぎり職員を育てる取り組みは行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に一度、同じ町内会のグループホームと合同行事を行っており(今年度は第7回目)、そのために年2回は運営推進会議も合同で行い、その他、担当者の打ち合わせを数回行うことにより、他グループホームとの交流は深まり、サービスの質も向上している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に得た情報をスタッフ皆で共有し、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、管理者が十分話を聴き、家族との信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族が「その時」必要としている支援を管理者が見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に笑顔で過ごせる関係を築くよう職員一同が努めている。コミュニケーションを取るのが難しい方もいるが、笑顔は多いと感じる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、家族と共に本人を支えていく事を全職員が認識し、関係づくりに努めている。大切な事は必ず管理者が家族と話し合い、信頼関係をつくり、日常のケアの中で職員と家族の信頼関係も築かれていっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。来訪時には、家庭を訪問した時のようなおもてなしを心がけている。	高齢化が進行するに伴い、室内に在ることを望むようになってきたが、希望を家族に伝え、思い出の場所への外出を家族と協力しながら行っている。馴染みの関係にあるボランティアと一緒に近隣公園の散歩を行い、近隣住民との交流深めている。また、定例行事として「ふれあい広場」でゲームや地域合同行事、事業所の作品発表など行い参加者との交流を実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、個々の利用者が安心して落ち着いて生活できるよう常に配慮し、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも相談に応じ、必要な支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアやミーティングの中で、情報交換しながら、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	利用者の生活、行動に変化が有るときは動作、表情、会話を重ねながら思いや意向を汲み取るように努め、記録に残している。また、職員間で話し合い申し送りなどで共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルの中の情報提供書・センター方式のシート(家族に記入依頼)で経過を把握し、日々のケアで得た情報をミーティングなどで確認しあい、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録、申し送りやミーティングでの情報交換や、その記録により、暮らしの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングの中のカンファレンスで検討した結果を介護計画に反映させている。実情に即した介護計画を作成している。	日々の介護記録やミーティングなどの情報から利用者や家族の要望を反映させた短期3ヶ月、長期1年の介護計画を作成し、家族に説明し署名を得ている。また、より分かりやすい「ケア目標」を作成し、ケア目標と介護記録が連動するよう書式を工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の充実については、まだまだ工夫が必要と感じているが、ミーティングや毎日の申し送りの中で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設当初から一人ひとりのニーズに合わせた支援を心がけているので、現在も既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らし方の変化もあるが、地域資源を把握し、その時々に必要な地域資源との協働をしていきたいと考え、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にしながら、納得の得られた医療機関をかかりつけ医としている。現在は全員が往診によるかかりつけ医となっており、複数の医療機関と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。月1回2つの医療関連機関による往診が有り、家族の要望に沿うようにしている。歯科、眼科、耳鼻咽喉科へは家族の希望があれば管理者が同行している。薬局との契約で、薬の振り分けなどの支援を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護職員がおり、日々のケアの中でとらえた情報や気づきを伝え、相談できる体制が整っている。状態によっては、訪問看護師に相談し依頼できる体制も整っており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する事は、あまりないが、入院した場合は、安心して治療できるよう、またできるだけ早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から看取りの希望を聞いている場合が多いが、実際に重度化した場合や終末期には主治医とも相談し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、ターミナル契約を結び、支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有し、ターミナルケアを実践している。看護師を同席して家族と看取りの契約を行い、看取りは普通のこととして受け止めている。今までに8人以上の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講したり、事業所内ではマニュアルがあり、学習はしているが、実際の経験が少なく、不安に思っている職員も多い。まずは、きちんと管理者や看護師に連絡する事を確認しあっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は利用者が実際に参加する形で消防と一緒に年2回、その他にも毎月1回避難誘導訓練を行うなど全職員がスムーズに避難誘導できるよう訓練を重ねている。水害・地震についてはマニュアルを元に確認している。	毎年6月と10月に消防職員立会いで、日中や夜間を想定した総合避難訓練を実施し、住民の協力を得ている。講評は運営推進会議で発表し次回に反映するように努めている。カセットガスコンロ、3日分の飲料水と食料品を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう努め、ミーティングなどでも、実際に気になる所はないか確認しあっている。	日々の生活の中で不適切な言葉や、トイレ誘導などではさり気なく目立たないように配慮し、利用者の尊厳を守るケアに努めている。個人情報や書類ファイルは事務室に保管し常に施錠している。	一般的なプライバシーに関する同意書は得られているが、個々のケースでの写真掲載や氏名を出す場合の同意書の作成方法の見直しを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望を表現したり、自己決定できる事が少なくなってきたと感じる事も多くなってきたが、できるだけ、わかりやすい方法で自己決定する機会を作ったり、本人の思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいかと希望を表す事は少なくなってきたが、一人ひとりのペースを大切にし、ゆっくり、のんびり、そして笑顔で過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分から身だしなみを気にする事が少なくなってきたと感じるが、その人らしい身だしなみやお洒落ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備をする事は難しくなっているが、片付けなどできる人には、自分でしてもらっている。食事は職員と利用者が一緒に食べており、特に、四季折々の行事に合わせた食事や、おやつなどは、楽しんでいる人が多い。	誕生日はケーキや好きな物でお祝いしたり、ボランティアの夫婦が年数回の手打ちそばを提供して頂き、食の楽しみを提供している。季節行事に合わせ旬の食材を使い利用者の嗜好やキザミ度を考慮した食事を提供し、職員と一緒に会話を交えて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に必要に応じ、食べる量や水分量などを記録し、情報を共有している。食事に介助が必要になってきた方も増えてきたが、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に合わせた口腔ケアの支援をしている。その他にも訪問歯科を利用し、定期的に口腔ケアなどをしてもらうようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している人は少なくなってきたが、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄ができるよう支援している。	利用者毎の排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握しながら、一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導をするともに、利用者の様子により、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけなど工夫してきたが、実際には、主治医に相談し、服薬などで対応する事が多い。服薬だけに頼るのではなく個々に応じた便秘予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で決めるのではなく、一人ひとりの希望や望ましいと思われるペースで入浴ができるように支援している。季節によって汗を流し、気持ち良く過ごせる事を優先したり、ゆっくり温まる事を優先したりと、臨機応変に対応している。	日時回数などを決めないで本人本位とし、嫌がるときは原因を取り除くように根気よく勤めるように努めている。シャワー浴や清拭など要望を聞き取り、同姓介助、2人介助などに配慮し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、活動的な時間を多く持てるようにしているが、その方の状態に合わせて休む時間を取れるように配慮している。夜間あまり眠れない方もいるが、日中元気に過ごしているのも、その方のリズムと捉えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴じられており、いつでも確認できる。薬の変化も皆がわかるように個人記録・薬の掲示板などに記載し、その都度確認し、また口頭でも薬による症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割などを取り入れる事が、できなくなっていたが、歌や、ゲーム、お喋りなど楽しい時間を持ち、笑顔でいられるよう支援している。今後も一人ひとりに合わせた支援をしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出などの希望を表す方が少なくなってきたが、必要に応じ外出の支援をしている。春～秋は少人数ずつではあるが、散歩に出たり、行事等で外に出て気分転換や楽しみが持てるよう支援している。	天気の良い日は体調に合わせ、事業所の庭の花畑や近隣公園へボランティアと一緒に散歩している。「ふれあい広場」での定例行事のゲームや地域合同行事に参加したり事業所の作品を展示している。また、事業所庭での焼肉などで外気を少しでも得られる様実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、現在はお金を所持する事を希望する方や自分で買い物に行く事を希望する方がいないため、事業所でお金を預かり、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合は、こちらから御連絡し、電話をかけて頂くようにしている。手紙のやりとりも勧めているが、実際には、できる方が少なかった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々、普通の家なので、家庭的な雰囲気があり、狭いながらも居心地よく過ごせるよう工夫している。日当たりが良い分、まぶしさなどを感じる事も多いので、その都度、カーテンや照明などで不快感のないよう調整している。	一般住宅を改造しバリアフリー構造で、多くの手摺を利用し安全に自立歩行をしている。真南の大きな窓からは日光が1日中差し込み清々しく開放的な室内となっている。壁には絵画、行事写真、季節の飾り物、貼り絵などを掲示し、ペチカがあり温かみがあるリビングで利用者は落ち着いた生活観の中で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い共用空間の中では、座席の位置が重要な場面が多々あるので、常に一人ひとりの状態や人間関係を把握し、楽しく過ごせるよう配慮している。独りになれる空間は、あまりないので、その場合は自室で過ごす事が多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれ好みの物を置いたり、本人や家族と相談しながら本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1階に3室、2階に6室と2つのエリアに分かれている。利用者は仏壇、テレビ、整理タンス、イスなど使い慣れたものを持ち込み、利用者が使いやすい配置をしている。利用者家族の要望があるときは事業所のベッドを提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は狭い事を活かし、手すりなどを付け、できるだけ自立歩行ができるように工夫している。また、一人ひとりの状態に合わせて、家具の配置を工夫するなど安全かつできるだけ自立した生活を送れるように配慮している。		